

1. 実践内容（高学年ブロック）

日常の取り組み

【話すこと・聞くこと】

- ・朝の会で「だれが・いつ・どこで・なにをした」に気をつけながらスピーチを行った。
- ・自分の意見を言うときには、まず結論を伝え、その後にその理由や説明をする話し方に心がけさせた。

【書くこと】

- ・既習学年の語彙や文法事項に関する復習プリントに取り組んだ。
- ・スピーチメモを取り、話し手の意図をとらえ、端的にまとめる練習を行った。
- ・授業の後に学習感想を書く時間を設け、学んだことや難しかったことなどを「具体的に書く」習慣をつけさせた。

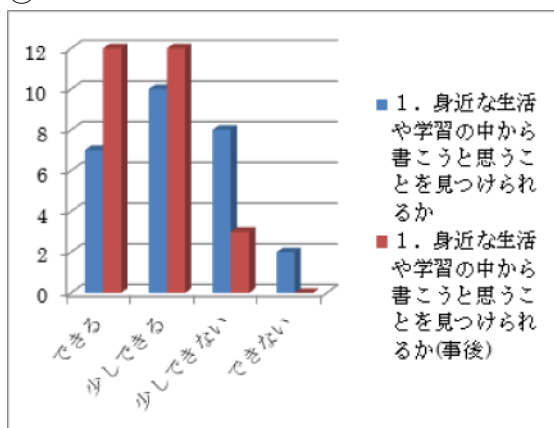
【スピーチメモ】

聞いてみて	内容	日付
A	A	12/22
私はスキーが好き まり生手ではな いのでかたい滑 手のように上手に なりたいと思っ ました。 <i>Good!</i>	スキーコンア のめは、滑り手 が上手いこと がポイント。 トニー。	話した人
B	B	A
次は合かてま るようがんばて ほしいと思いま した。	先生の合曜日 に滑り事があ った。	B

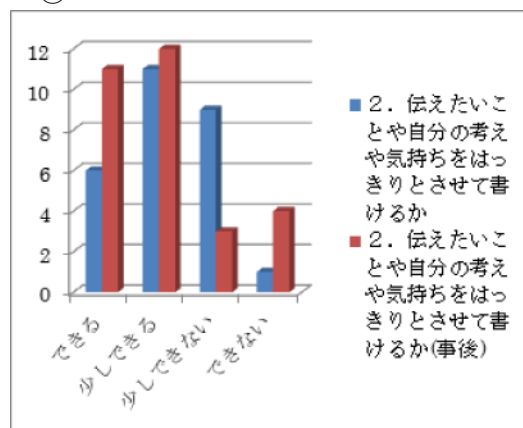
「内容」については、要点を短めに書くよう指導した。「聞いてみて」については、話の内容を自分の経験に置き換えて、自分の考えも入れて書くよう指導した。その結果、ただ、「楽しかった」というような内容だったものが、自分の考えを盛り込み共感的な言葉が入るようになった児童が多く見られようになった。

2. アンケートより

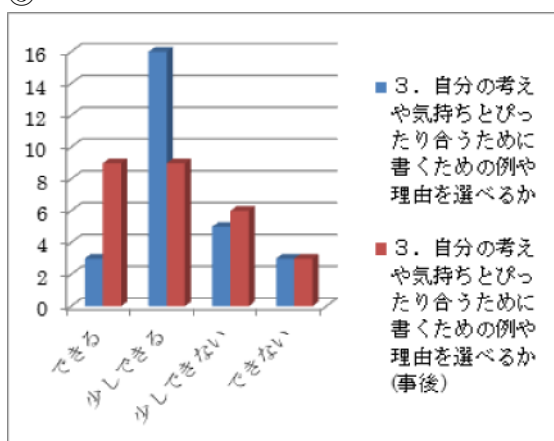
①



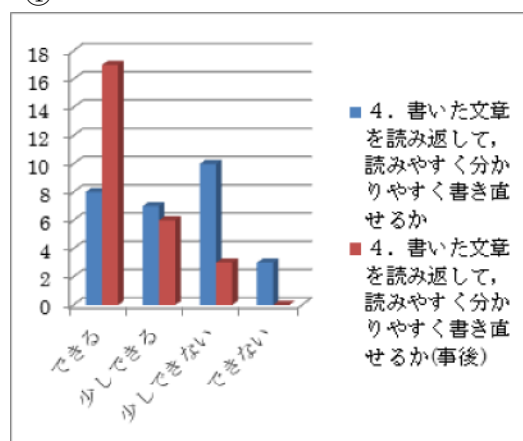
②



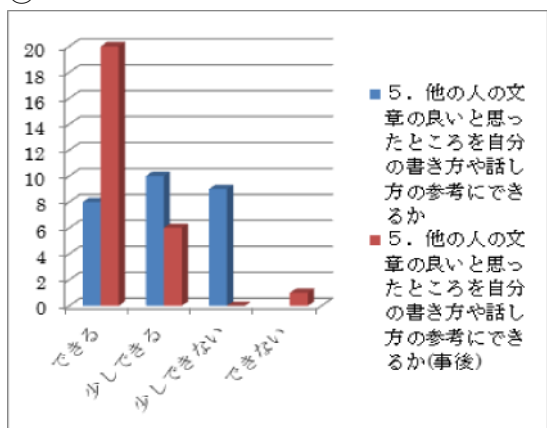
③



④



⑤



①を見ると、身近な生活や学習の中から課題を見つけることに関して自信をつけた児童が圧倒的に増えたことが分かる。

②をみると、自分の意見を書き表すこともできるようになったと感じている。

④⑤を見ると、交流によって、推敲する意識も高まり、友だちの文章からよいと思うことも自分の文章に生かすこともできるようになっていることが伺える。

しかし一方、③の結果を見ると、自分の考えに根拠を持たせるために、自分の考えにぴったりと合った資料を探すことの難しさを感じているようである。

3. 成果と課題

【成果】

- ・キーワード一覧表は、色分けされていて、どれがキーワードか分かりやすく、子どもたちにもよく活用されていた。「書くこと」が苦手な子どもにとっては、大きな助けになっていた。
- ・成果物、ワークシート、構成シートなど、よく計算されていて有効だったように思う。
- ・最後の意見交換はとても有意義だったので、もっと時間を確保してもよかったのではないだろうか。
- ・意見交換の場面でも、成果物が有効利用されていてよかったように思う。

【課題】

- ・今回の授業では、児童の考えが先にあり、その考えに根拠を持たせる資料を教師側が探すという形を取った。しかし、上記の意識調査③からも見とれるように、今回各自が使った資料が、必ずしも自分の考えに根拠を持たせるような資料になっていたとは言えない。また、資料が多様化していて、資料の読み取りなどへの担任の負担も大きかった。児童の考えからスタートする方法もあるが、教科書に掲載されている資料はやはり優れているので、その資料から自分はどうか考えるかという手法をとるのがベターではないかと感じさせられた。
- ・グラフの読み取りが難しく、読み取りが浅い児童が見られた。グラフに戻らせ、考えさせる時間があってもよかった。
- ・キーワード一覧表は、キーワードが明確で、子どもたちが書くときの大きな指標となり有効であったが、形にはめてしまうとそこから抜け出せない気もする。今後、どう発展させるか今後の課題である。

【指導主事より】

- ・今回のようにグラフを扱う場合には、データ分析を大切に行う必要がある。今回は、資料が多様化していたため、その分析が少し甘かったのではないだろうか。
- ・日本に求められていることは「読むこと」が中心であるので、配当時数の少ない「書くこと」にどこまで必要性があるか検討の必要がある。
- ・世の中は、横書きが主である。そのことも考えて「書くこと」に取り組ませたい。
- ・「交流」を効果的に行うためにも、扱うデータは10年を基本に（子どもたちが生まれてから約10である）、同じ土俵に立てるデータが望ましい。
- ・自分が書いた内容には、責任を持たせるようにした方がよい。
- ・スキルを徹底し、ツールにこだわるなど柔軟的に取り組むとよい。